

2021年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

(秋期・一般選抜) 問題

専門科目Ⅰ 東洋・日本美術史 専攻分野

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。

受 験 番 号	
---------	--

受 験 番 号	
---------	--

11. 各設問の指示にしたがって答えなさい。

問題 1

以下の文章は、正暦二年(九九一)の粉河寺に関する太政官符(『応免除粉河寺所領鎌垣東西村四至内雑役等事』)の一部である。これを読み、書き下し文を作成しなさい。書き下しに当たっては、読点を適宜句点に改めること。

于時大伴連公孔子古奉為公家、以去宝龜年中所奉造也、玄武山峙於後、靈獄雲聳北闕之臺、青龍河流於前、法水浪唱南無之聲、自爾以降、到今無懈怠、就中奉祈國王聖朝宝祚、獻上年中兩度御卷數、雖殊蒙 宣旨、既為御願奉修之庭、加以斯寺千手千眼之光明、好照心懷之暮暗、三十三身之分容、亦現滿願之曉晴、

受験番号

問題 2

以下に示した資料は、『都林泉名勝図会』（寛政十二年・一七九九刊）の一部である。全文（ふりがなを除く）を現代通用の表記に書き改めなさい。

高雄山神護寺の林泉洛北の妙境化邦無比歟——寺名不遠龍
川、そぞろく流く飛橋、乃て渡す所、若くもやうらうら楓林あり。あ
深杖の頂、紅錦を曝とるべく、の面ぞと紅と彩、も似うけを
伽藍も堂も一山丹楓をぬれ、乃て道の側、弘法大師の額
書石あり、あらこれ無う。金剛定寺の額と大師書、ゆきと
帝より勅あり、く敷使をうけ、みけりて、なまじりて、父立頻、うけを
信濃川の水、たもたも危くく見、なるが大師あり、乃て筆、墨を
食せ、石より額、向て書、墨の旁のぬく、なで額、の面に、
やうく怪、み、金剛定寺の四文字、現し、勅使、意、うけ、て、
あ、今、額、立、石、撫門の東、あり、折、嵩山、和氣、信、磨、幡宮の神、勅
と、あ、う、く、み、精舎、を、創、し、乃て、初、に、神願寺と、号、く、
神字、を、長、二年、み、嵩山、弘法大師、を、賜、て、改、く、神護國祚、真言寺
と、號、く、大師、住、山、し、二年、六年、金胎、密部、密衆の宗、風、を、
耀、く、

林泉四

貴賤を度り、什寶、大師の尊迹の、水、は、泉、風、あり、
密灌の時、おもしろ、立、所、故、實、あり、

名眼と宗儀

受験番号	
------	--

三、次の項目について略述しなれり。

A、院政期の美術とその特色

B、絵巻形式の制約にともなう表現上のメリットとデメリット

① 江戸時代の土佐派と住吉派

受 験 番 号	
---------	--

□' 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

E、オランダ絵画と東洋